

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ぎふけんりつおおがききたこうとうがっこう				②所在都道府県	岐阜県	
26～30	① 学校名	岐阜県立大垣北高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1学年8クラス 平成25年度在籍者総数 963名		
普通科	320	320	120		760			
⑥研究開発構想名	清流の国ぎふ アジアを学び世界をつなぐ1600人のリーダー育成							
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究」（1・2年生各2単位、3年生1単位）を導入し、全生徒を対象に、系統的・段階的な課題研究を実施し、その教育課程を開発する。 ・グローバル、特に東南アジア、東アジア諸国における社会・ビジネス課題を題材とし、専門的な知見を有する大学（東京大学大学院教育学研究科グローバル社会の教育課題研究会、名古屋大学大学院国際開発研究科等）やアジア諸国に事業展開する大垣のグローバル企業等と連携を図り、カンボジア・ベトナムでの海外フィールドワーク・インターンシップを効果的に位置付けて実施する。 ・各教科での言語活動の充実や英語の授業と課題研究との効果的な連携を図るとともに、課題研究の基盤となる論理的思考力・表現力を身に付ける言語技術指導を導入する。 							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文理問わず全生徒（学年320名、平成26年度から学年進行で実施）を対象として、大学や企業との連携の下で、グローバルな社会・ビジネス課題を題材とした課題研究を行う「SGH 課題研究」の教育カリキュラムを確立する。 ・平成30年度末までに、計1600人の生徒を対象に、体系的・系統的な「SGH 課題研究」を実施し、グローバル・リーダーとしての資質・能力を育成する。 ・平成31年度までに、SGH 事業の成果を活かし、大垣北高等学校を含めて 計6校程度の高等学校普通科において、大学や企業等と連携した課題研究を学校設定科目等として導入し、高等学校教育の改革を推進する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p><現状分析></p> <p>1・2年生の全生徒を対象に実施した「グローバル・リーダー育成のための生徒意識行動調査」の結果からは、生徒の学力・ポテンシャルは高いものの、自ら様々な活動や自己研鑽の機会を求めていく行動力や、自律的に学ぶ姿勢、グローバルな視野や関心、自分の考えを文章にまとめて説明するなどの論理的表現力に課題がある。</p> <p><研究開発の仮説></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SGH 課題研究」に取り組むことにより、課題発見力・設定力、他者と協力して課題解決できる力、論理的思考力・表現力、グローバルな視野、関心など、グローバル・リーダーに求められる資質・能力を育成できる。 ・国語を中心に、言語技術指導プログラムを導入することにより、国際的に通用する論理的思考力・表現力を育成することができる。 ・課題研究と英語の授業の効果的な連携を図ることにより、相乗効果を発揮し、英語によるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用 ・研究会や交流会において、県内外のグローバル人材育成を目指す高校への発信 ・高校説明会やメディアを通じて地域社会・地元企業・大学への成果の発信 						

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際開発分野：アジアの開発課題の実態、国際貢献の在り方について政策志向の研究 ・国際ビジネス分野：グローバル企業の経営戦略や国内外でのCSR活動の可能性を研究 ・環境エネルギー分野：文理融合テーマ 環境エネルギー分野での国際貢献 ・国際医療分野：HIVを題材に国際医療福祉の課題を学び、国際社会、日本の関わりを考察 ・比較教育分野：グローバル化が進展する教育政策・実践の動向から世界の潮流を捉える <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SGH 課題研究」は平成26年度入学生から学年進行で実施。 ・1年生8クラス320名全員を対象に、「SGH 課題研究-1」を2時間連続・一斉展開で実施（実施曜日は調整中であるが、第6・7限に実施予定）。 ・連携先大学、主に名古屋大学及び岐阜大学の大学院に在籍する留学生等を各クラス1～2名ずつティーチングアシスタント（TA）として配置し、入門研究への指導助言を受け体制を整備。（学校での指導のみならず、メールでの質問対応等もできる方向で調整） <p>◆生徒意識行動調査による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 事業に申請をしていない県立高校2校を対照グループ(control group)として設定し、経年変化等を比較分析することにより、客観的にSGH 事業の成果を具体的に明らかにすることができる。 ・保護者、教職員へのアンケート調査の実施も検討する。 <p>◆レポートや研究論文等、生徒の成果物等を基にした評価、連携機関からの評価</p> <p>◆アウトカム、アウトプット指標の達成状況に関する評価</p> <p>◆卒業生への追跡調査</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p><1年生全生徒対象（平成26年度から）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究-1」1単位分で、「総合的な学習の時間」1単位を代替する。 ・学校設定教科「SGH 課題研究-1」1単位分で、「社会と情報」1単位を代替する。 <p><2年生全生徒対象（平成27年度から）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究-2」1単位分で、「総合的な学習の時間」1単位を代替する。 ・学校設定科目「SGH 課題研究-2」1単位分で、「社会と情報」1単位を代替する。
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>○言語技術指導とそれを基にした言語活動による論理的思考力・表現力の育成について</p> <p>「国語総合」を中心に言語技術指導を取り入れ、その技術を全教科及び課題研究で実践することによって、国際的に通用する論理的思考力・表現力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証評価：小論文、エッセイ、レポート、発言内容及び定期考査での記述内容など 授業評価、生徒の意識行動調査における生徒の意識変容 <p>○英語によるコミュニケーション能力の伸長について</p> <p>4技能を総合的に取り入れた授業改善、課題研究と英語の授業を有機的に関連付けた指導法の開発、実践的コミュニケーション活動への参加により、英語運用能力を向上させるとともに、課題研究のための基礎を養い、コミュニケーション能力の伸長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証評価：TOEFLを受験し、国際的な基準で生徒の英語力を検証評価する。 生徒質問紙調査を実施し、英語学習に対する意欲等について検証する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校生英語ディベート大会等、各種コンテストへの参加 ・海外の高校との姉妹校提携・国際関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国テキサス州チャードソン高校、バークナー高校 ・カンボジアシソワット高校 ・ユネスコ・タイ事務所との連携 ・岐阜県や大垣市海外交流プログラムなどの短期留学生等の積極的な受け入れ ・海外研修の実施：課題研究のフィールドワークとして地元企業の現地工場視察 カンボジアシソワット高校との共同研究の実施